

171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.88



特集 第2回全国サービスフォーラムを終えて

昨年4月、日本AAでは初めての試みとして、中部北陸地域、名古屋市で「全国サービスフォーラム」が実施されました。日本各地から大勢の仲間が集まり、すでに飲まないでいる私たちがAAの目的である、「今苦しんでいるアルコールク」に何が出来るのかを、グループ、地区、地域の枠を越え、熱い思いのうちに分かち合われたのはまだ記憶に新しく、本年の「全国サービスフォーラム・イン・北海道」もその熱気が冷めぬ5月26, 27日両日、北海道地域、札幌市で

人の参加のもとに実施されました。いずれも実行委員会の仲間たちのひたすらなサービスへの貢献が「また来年も一緒にやろう!」と引き継がれました。



2001年5月26日(土曜日)
参加者全員の許可のもとに撮影

- ☒ 北海道でやったせいか、道外の仲間との距離が無くなった気がします。どこも似たような問題を抱えているんだ、北海道だけじゃないんだなあと思いました。 ワタナベ
- ☒ 田舎からこの!年半、札幌通い(月1回)していて、サービスなるものの意味と必要性が解りかけてきたところです。今回のイベント、本当に良かったと思っています。 アカオ
- ☒ "サービスと自分"って考えてみても結びつかず、AAにいて2,3年たったら何かやるようになるんだなあ、ぐらいの感覚しかなかった。会場のお湯沸かしもサービスだと知らずにやっていた人は、私だけではないと確信している。 弥生

フォーラムを終えて・新委員
仲間からのメッセージ
仲間からのメッセージ

- ☒ 初めは出来ないと思っていたが、やって良かった! トシオ
- ☒ 2年にわたって企画・実施(運営)出来たことは実に素晴らしいことだ。 さかた
- ☒ 初めは出来るかどうか不安だったが、やってみて本当に良かったと思っています。 フリー
- ☒ いつも自分の能力の無さが周りの人にばれる怖れ、出来れば避けて通りたかった役割、サービスフォーラムの実行委員として参加出来たことが良かった。 司会も出来た。 センチョウ
- ☒ 書記をやらせてもらいました。サービスについて今まで考えていたことと違うことがあり、自分にとって大変良かったと思います。また道外の仲間の声(サービスについて)が直に聞けて良かったです。 ダスト
- ☒ 新しいことば、色々気づかされました。北海道でやったことの意義があったと思います。 フクシ
- ☒ 来年の東北を楽しみにしています。 シュガー
- ☒ 自分たちの地域で行われていることの確認と、これから何を行っていくかが確かめられた。 七絵
- ☒ やってみれば何とかなるものだなァ。 シンプル
- ☒ たずさわることの大切さを教えられました。 フォアグラ
- ☒ 書記の方々、お疲れさまでした。今後サービス・フォーラムを開催される地域の仲間へ.....書記には手厚くお願いします。 コンノ
- ☒ フォーラムを支えてくれた、たくさんの仲間たちとハイパーパワーに感謝します。今回の経験が今後生かされることと思います。 マイルド

第2回全国サービス フォーラムを振り返って

昨年4月名古屋で、第1回サービスフォーラムが開催される事を、BOX誌上で知らされた。当時、北海道地域でもサービスフォーラムを開催する事が決まっていたので、是非参加したいと思いつき、申し込むことにした。

ちょうど北海道地域でも、ここ何年も続けて地域集会で、各Gよりサービスフォーラムを開催して欲しいとの要望があり、サービスに対する疑問・興味等が高まっていたことも追い風となったのであろう。

私は8年前、札幌にて開催されたJSOスタッフが参加するサービスフォーラムの時に、実行委員としてお手伝いをする機会を得た。当時はサービスの意味も、何もわからず、ただ聞くばかりであったが、なぜかその時のいろいろな話のなかに納得することが多かった。この経験が私の感じていた“サービスに関わらないと、AAに居続ける事は出来ない”という思いを、少しずつ脅迫的なものから、自発的なものに変えて行く転機となった。

名古屋行きの話が道内の仲間の中で広がり、最終的には9名もの参加者となった。いつも委員会で顔を合わせている仲間4人と一緒に、空港で待ち合わせをして名古屋のサービスフォーラム会場へと向かった。現地に着いて、驚いたのは会場の立派さそして対応する実行委員の仲間の多いことで、又いつもの宿泊イベントではあまり見られない背広姿が多いこともとても印象に残っている。

フォーラム冒頭の元JSOスタッフによる、日本の地域割りの話が印象深く記憶に残っている。そして、その当時、将来を見据えて考え、何も無いところからのスタートで、よく線引きができたものだと感心した。

それぞれの会議でスピーカーのレジュメ配布・書記による報告と、私には、いまだ経験したことのないものが多く、戸惑い気味であった。

全国の仲間との新しい出会い、そして嬉しい再会も、さらに会議の終了後さまざまな地域の仲間と夜遅くまで分かち合いをすることが出来た。少々寝不足になったものの、何にも変え難い楽しい時を過ごす事ができた。

フォーラム終了後、地元のミーティングに参加した私達4人は、その夜、ホテルで話し合った。あのようなフォーラムを北海道では到底出来ないなどと話し合いを進めるうちに、この名古屋のフォーラムは第1回でもあり、今後も続くのだから、どうせ輪番制で当たるのなら、早い方がよいのではとの意見も出てきた。予想通りなのかどうか、帰ってきて直ぐに、常任理事

会より第2回サービスフォーラムの北海道開催について打診があった。

これを受けて、その月の地域集会で開催についての審議、検討が行われた。賛否両論ともに討議された結果、以前に決定していた道内のサービスフォーラムを兼ねて開催するというのが全会一致で採決された。

地域委員会として、第1回目の実行委員会までに、会場を探そうということになり、それぞれが動き出したものの、宿泊先はあるのだが、全体会議・分科会会場も併設されているとなると、びっくりするほど高額な料金設定になってしまう。常任理事会の予算10万円では到底、間に合わないだろうと困っていた時、AAにご理解をいただいている関係者に事情を相談したところ、JR研修センターを紹介していただいた。早速問合せをし、下見にうかがってみたところ、名古屋のように立派ではないが、十分に満足できるものが見つかったと確信した。

次に第1回サービスフォーラム(名古屋)の開催までの資料を送ってもらい、いよいよ、第1回の実行委員会を、7月の浦河のセミナー会場で、地元メンバーの協力を得て立ち上げることになった。

全国規模のイベントだけに、人数もかなり必要だろうと心配していたが、30数名もの仲間が集まってくれたことは、北海道の仲間の熱い思いの証しであろう。それぞれの役割分担、そして実行委員会の開催頻度を決めて、動き出すことになった。

広い北海道では月1回全員そろっての実行委員会開催は大変だろうとの判断で、プログラム作成委員会(5~6人)を立ち上げ、そこで草案を練り上げ、2~3ヶ月毎の実行委員会を決める形が確認された。

9月の登別ラウンドアップには常任理事や名古屋開催時の実行委員も参加していただくことができ、2日目の行事終了後に第2回実行委員会が行われた。

参加メンバーは皆、さすがに疲れてはいたが、常任理事より、北海道にとって今一番必要な事を分かち合えるフォーラムにしてはどうだろうか、また、名古屋のメンバーからは開催して良かったことや大変だったことなどの本音を聞かせてもらうことができ、その後の活動に活用することが出来た。

第1回サービスフォーラム実行委員会の経験を基に、全国のグループにアンケートを送ることになり、少し時期が遅れたが年内に発送することができた。回収についてはあまり期待はしていなかったが、30数通の返信があり、その中から実行委員会でのメインテーマや分科会テーマを決め、プログラムの作成及び全国への発送と進んだ。

開催日の選択も、4月は地域集会・5月は釧路・帯広G合同セミナー・6月はよさこい祭りと行事が決まっている中で、5月中旬が札幌が一番、緑が映えるだろうとの結論に達し、恒例の釧路・帯広G合同セミナーの開催を見合わせていただき、5月26・27日の開催に決定した。

道外からの参加は何人位になるのか心配していたものの、蓋を開けてみると50名を超える参加に、いつもサービスに関わるメンバーが少ないことが話題になっていたのに、この数はどうということなのだろうかと驚いてしまった。きっと苦しんでいるアルコールク（アルコール中毒者）への熱い思いなのかも知れない。

最後に、北海道もメンバーが増えないなどと不平不満を言っているが、このフォーラムを開催させていただいて感じるのは、私がAAにつながつた10年前には考えられないことばかりなのである。毎年、評議員の選出に悩んだり、積極的にサービスに関わるメンバーが少ないなど、まだまだ色々と問題点は有るけれど、確実にAAのプログラムを実践していけば、必ず成長は見えてくるものと確信した。

本当にありがとうございました。 トシオ
第2回全国サービスフォーラム実行委員



第2回サービスフォーラムの中で自らのサービス活動を見直す機会を与えられたことは、私にとって、とても必要なことだったと感じています。そして、これまでのやり方（伝え方）の中には多くの誤解や過ちがあったことを気づかされました。

少し残念なことは、2度目のサービスフォーラムで、これから進むべき方向が真摯なディスカッションを通して深めることが思うようにはできなかったことです。

各地域の情報を相互利用できるような意見交換を、とっていたのですが...

自らの無力さ（経験不足、情報不足などなど）を痛感するとともに、もう少し時間が必要だと強く感じたのは私だけでしょうか。

少数の仲間の熱意ではサービスを維持していくのは難しく、多くの人々の力が集まって、初めて可能になるのではないのでしょうか。仲間が思う強い要望は何なのかを一緒に考えていきたいと思えます。これからのさまざまなサービス活動に、より多くの仲間が、それぞれ主体的にどうかかわるか考えて行かなければと思います。それには、ホームグループの中や、スポンサーシップを通しての分かち合い、ビッグ・ブックを始めとする書籍・印刷物を利用した分かち合い、そして、さまざまな分野のノンアルコールとの協力なども必要になると思います。

私たちの第一の目的は、助けを望み、求めているアルコールクに回復のプログラムのメッセージを運ぶことです。

私自身の回復にとって、AAを薦めてくれた医療関係者がいたこと、仲間とあるいは一人で出版物を繰り返し読んだこと、スポンサーを受けてくれた仲間が与えられたこと、スポンサーを与えられたこと、「第一のことは第一に」を常に大切に考えるホームグループに出会えたこと、病院や施設へのメッセージに仲間と出かけたこと、地区、地域の委員会の役割を担うことなど、さまざまな経験が必要であったと思えますし、そのプログラムにとっても感謝しています。

これからもあらゆるところで積極的にスポンサーシップを

取っていかうという姿勢をとり続けられますようお願いしています。

スポンサーシップについての委員会（スポンサーシップQ & A、P32~33より一部抜粋：定期的に委員会を開き、構成メンバーは輪番制にする。セントラルオフィスがあって、そこに12番目のステップ（メッセージ）の要請に応えられるグループやメンバーのリストを作成している場合には、グループの責任を担える十分な数のメンバーが登録されているか、委員会は確認をとる。新しい人のリストに関連の委員会が検討し、必要と思われる人のフォローをする。施設、治療センター、ハーフウェイハウスなどを退所したばかりの新しい人を歓迎する手順を整える。）の経験があれば聞かせて欲しかったのですが、この機会がなかったことも残念なことの一つです。

落胆や高慢は私につきまとして離れない欠点です。

『これもまた過ぎ去り、進歩の試金石となりますように』... 祈りは自分に変えられないものを受け入れる落ち着きと、私が変わられるものを変えてゆく勇気と、違いを見分ける賢さを与えてくれると信じています。

このスポンサーシップについての話し合いは、絶えずグループや地区の中で継続して、機会があれば全国の仲間と分かち合うことができればと思っています。

『ゆっくり、シンプルに生きたい。』この簡単なテーマを実践することが困難なのは、私が趣味のように持ちつづけている欠点のためなのでしょう。

北海道の青葉に包まれた瞬間、私も心から幸せを感じる時を与えられていることがうれしかった。生きる喜びを味わうことを許されていることに感謝できた。いのちのたくましさや路肩の雑草から、いのちの尊さを田植えする農夫から、今日いただけるのもAAに巡り合え、仲間を与えていただいたハイヤーパワーの贈り物だと思っています。

そして、今日一日、その力の意志を知りそれを実践する力だけを求めて.....

終りにサービスフォーラムに参加させていただくにあたり、関係された全ての方々の平安をお祈りいたします。ありがとうございました。

元山



先日北海道の札幌で行われた全国サービス・フォーラムに参加する機会をいただき、分科会（「AAのひきつける魅力とは」～何故メンバーが増えないのか～）でもスピーカーをさせていただきました。この貴重な経験をさせていただいたことに対して、神様、JSO職員、フォーラム実行委員会の皆様と多くの仲間感謝したいと思います。

今回のフォーラムのテーマは「サービスももっと楽に考えよう」ということで、発想としてよかったと思います。しかし、フォーラム初日の全体会議で常任理事や評議会関係者の個人的な経験の話や年間活動報告を長々と聞いているうちに、「やっぱりサービスは大変だ。娘の運動会に行けばよかった」と思ったりしました。とはいえ、傍でサービスと役割

に当たっている人を槍玉にあげてあら捜しをするのがたやすいことですが、他者に問題を探す自分こそ問題があることを度々プログラムとサービスを通じて気付かせてもらっています。それにしても、全国からの仲間がせっかく集まりましたので、もう少し人の関心を惹きつけるような方法でサービスが本来持つ面白さや可能性を訴えることができればよかったですと思いました。ステップにしてもそうだし伝統にしてもそうですが、AAのひきつける魅力は個人よりも原理(プロセス)にあると思いますので、グループ代議員、地区委員会、地域委員会、地域集会、評議員、そして評議会を通しての提案や要望の流れを面白そうに示すような実例の話やプレゼンテーションがあってもよかったですと思います。あるいは、具体的な応用例を使いながら12の伝統や概念のありかたについてのオリエンテーションをしてもよかったですでしょう。

伝統2では、「私たちのグループの目的のための最高の権威はただ一つ、グループの良心のなかに自分を現される、愛の神である」となっているのに、全体ミーティングや分科会の始めに参加者が祈りを捧げないのは不思議でした。AAという事業が霊的共同体でその事業主が神だと本当に信じているならば、メンバーの私たちがその事業活動のため集まる際ボスに一言を捧げてもいいと思います。私は地区委員の役を今年からさせてもらっていますが、初めて委員会の席で声を出して小さな祈りを唱えようとしたときに誰も一緒にしてくれなくて自分も結局動揺して途中でこけてしまい気まずい思いをしました。それでも、二回目は無事に唱えられて今後も地区委員である限りその習慣を続けていきたいと思っています。AAミーティングでは自分の理解する神に対して全員で祈りを捧げることは大きな力と靈感と仲間との一体性を感じるチャンスですし、特にサービスの集まりのときには神の導きが必要ですので、神の力をたのみ、それに頼ることについて恥ずかしく思ったり隠したりすることはないと思います。スピーカーをさせてもらった分科会(「AAのひきつける魅力とは」～何故メンバーが増えないのか～)では、多くの仲間が力と経験と希望を出し合って活発な分ち合いになってよかったですと思います。AAにおけるアノニミテイのあり方、スポンサーシップの必要性、AAの広報活動、個人の助けを求める声を受けその対応をAAメンバーに振り分けるための12番ステップの体制など、多くのテーマについての話が出ました。とにかく、当たり前のことですが、AAのサービスはもうすでにAAにつながって助かっている私たちのためよりも、いま苦しんでいる未来の仲間のためにあるということにはよく伝わったと思います。

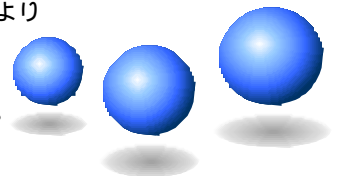
二日間の会議を通してもう一つ気付いたことは、集まったメンバーの間で熱い議論や意見のぶつかり合いが余り起こらないことでした。現在の日本におけるAAサービスは多くの問題や課題に直面していると思いますが、それらは成るべく多くのメンバーの貴重な意見を交えた議論を必要としています。日本におけるAAメンバーの数はこの15年間ほとんど変わっていないということは大きな問題だと思いますが、それを問題と認識せずその根本的な原因と対策をせっかくの全

国フォーラムにおいて議論しないままサービスの原状や献金の不足などを自分達を慰めあったり自嘲したりしながら不思議がっているようでは何もよくなりませんと思います。メンバーが増えない理由の一つとして、AAにはアルコールリズムから回復するのに必要な霊的体験を得るための12ステップのプログラムが明確に「余分な説明が不要なほど」(p.8)書かれている「アルコールリクス・アノニマス」という基本テキストがあるのに多くのメンバーが未だにミーティング・ハンドブックだけを頼みにミーティングに通っているということです。ハンドブックに書かれている内容がAAの全てだと勘違いしてビッグブックの素晴らしさに気付かないまま去っていくアルコールは今まで何人いたのでしょうか。これからは何人いるのでしょうか。なのに今年の全国評議会の報告書を見ればハンドブックの色を黄色にすべきかそれともピンク色にすべきかというとてもない議論が展開されているわけですのでどうかしていると思います。それと同時にビッグブックの内容や値段に関する重要な決定がグループの意見を十分に反映されないままなされていることも分かり、なおさらのことです。ビッグブックがAAの神聖な核心だというのは200万人を越える全世界のAA共同体の常識だということに、4000人そこそこの特定の国のAAメンバーがその抜粋だけをまとめたものを出したり内容を軽率に変えたりするのが私たちにとってもそしてこれからAAにつながる未来の仲間にとっても非常に危険なことだと思います。アルコールリズムという病気は国籍を選びませんので、その病気を克服するための霊的プログラムを特定の国民の性質に合わせて要約したり解釈したりするやりかたは成功するはずがないと思います。「アルコールリクス・アノニマス」(ビッグブック)に基づいた回復とスポンサーシップを推進することこそが今の日本におけるサービスの大きな課題だと思います。原点がしっかり確立すればメンバーの回復の質もよくなりますし、12ステップ活動をするメンバーの数も新しいメンバーの数も増えるはずで、そしたら献金も増えるでしょうし、サービスに関わりたがるメンバーも増えると思います。個人が始めてAAにつながる時違い探しをするより共通点を探すようスポンサーに勧められますが、日本のサービスについても同じようなことは言えるかもしれません。世界との違いを探したり自己流のやり方を探ったりするよりも、ビッグブックと伝統とサービスマニュアルに集約されている世界の力と危険と希望をそのまま吸収したほうがいいかもしれません。

あくまでも個人的な意見ですが、今回のサービス・フォーラムに参加して何よりも気付いたことは上記の課題に関する真剣な分ち合いのなさだったと思いますのでそのことについて触れさせていただきました。より

多くの仲間がサービスについての疑問や意見を出し合うきっかけになることを願います。

ありがとうございました。



ジェームス

AA日本ニュースレター No. 88

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス (J S O) 〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4 F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>